

< 第4分科会 > 情報交換部会 [評価研究委員会]

日 時 平成18年8月2日(水) 9:30~12:00

場 所 戸塚高校 大会議室

参 加 者 寺居、須貝、西山(みなと)・松尾(戸定)・佐藤、島村(横総)

テ ー マ 「各校の情報交換から評価について学習していく」

< 研究内容 >

評価研究委員会からの提示内容(7月の理事会で事前提示資料)についての意見交換をし、互いに評価について理解を深めていった。

【評価について】

- ・ 進学校になればなるほど、評価・評定が密接に結びついている。
- ・ 評定3をつけた生徒から質問を受けたことがある。「私は頑張った!のに・・・」に対して、他の生徒の様子と比較しながら説明・補足をして対応した。
- ・ 「普通」を5段階評価で3にしているが、評価1を除いて考えると3.5というのが妥当ではないか。(履修している生徒に対して修得することを前提と考えるべき)
- ・ 観点別の評価を打ち出すことによって、細分化できると考える。

【4つの観点】についての考え方を出し合った。

「評価をする際、果たして4観点が必要なのか?」にたいし

- ・ 今の状況からすれば、従うしかない。
- ・ 実技教科だけ得意な生徒もいるなかで、座学でも良い成績の生徒が実技はそれなりのレベルなのにもかかわらず、良い評価が得られるようになっているのがもんだいである。実技が得意な生徒を教科としてより良く評価してあげるべきで、実技をもっと重視していくべきである。
- ・ こちら側が目標を設定し、それに対して規準を超えたことについて評価をするものである。

関心・意欲・態度とは

- ・ 遅刻していない(授業に早く来る)
- ・ 種目に対し積極的に、時間を費やしている様子がうかがえる。
- ・ この観点の生徒への伝達は、オリエンテーション時に行っているが、ある意味この内容は、授業に対するしぼりになっているのでは。

教師が常に早め早めに動いていれば、生徒も同調するはず。授業の準備はしてあって、授業に入るべきであり、不足を生徒と一緒にするくらいである。

思考・判断とは

- ・ ノートやカードから読み取れるものも多少なりともあるが、生徒とのやり取りや行動を見てあげないと評価できないものである。(安全や動き・審判)など。
- ・ 授業で思考・判断を評価できる場面を設定しなければ評価できないものである。自

主的な活動、選択制の理念を設けるべきなのかもしれない。

- ・ 生涯体育を視野に入れるのなら、思考・判断の場面設定は必要である。

技能とは

- ・ 技術が身についていること。技能の修得が評価。技術は固有名詞であり、試合で発揮できるのが技能であり、それを段階的に評価したのが技能評価である。
- ・ 技能には知識・理解の域を含めることもあるのでは。

知識・理解とは

- ・ 技術、ルール、歴史（生涯体育につなげるとするならば、歴史を知ることが大切）
- ・ 正規のルールと授業の指導レベルで設定した変則ルール

【まとめ】

4つの観点について理解することができ、4つの観点の存在の理由が明確にはなってきたが、まだ明確に区分できない部分も残った。明日の理論講習会においてヒントが得られ、市立高校以外の全国的な状況が聴け、新たに研究の課題が発見できれば幸いである。

< 第 4 分科会 > 情報交換部会

日 時 平成 18 年 8 月 3 日 (木) 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

場 所 戸塚高校 大会議室

参 加 者 寺居・西山 (みなと) 佐藤・島村 (横総) 佐藤 (東) 松尾 (戸定)

「短期集中講座をさぐる」というテーマで話し合いました。

現在行われている内容については

- ・ 戸塚高校のスキューバーダイビング
- ・ みなと総合・横浜総合の夏季キャンプ、スキー教室など
- ・ 横浜総合の富士登山

などが話題に上がりました。

単位として認定しているかどうかは、学校により様々でした。

認定している学校でも、総合的学習として認定しているようで、体育の単位としての認定はされていませんでした。しかし、今後の教育改革の中のひとつの重要課題として保体研としては近い将来の実現に向けて働きかける必要があります。

考えられる課題

- ・ 単位の認定にこぎつけるには、必要最低限の時間を確保しなければならないので、1泊2日での計画の場合などは、事前や事後の活動の時間を確保する必要があること。
- ・ 多くの学校で共催を図ると、同じ内容を行っているのに、ある学校では、単位の認定があり、ある学校では単位認定されない場合や、認定されても総合的学習なのか、体育なのか、学校設定科目なのか、などの部分で統一感がないと、印象は悪いこと。
- ・ 専門の講師がいるときはできるが、いないと難しい場合、予算や講師の料金の折半、引率や出張などの難しさがある。

などが課題として取り上げられました。

今後も、模索の価値はあると思うが、クリアしなければならない課題は多いと感じました。

特に各校には少なからず希望者がいるが、1校単位では、開講するには難しい人数の場合や担当している教員が異動したら開講できなくなってしまう場合などは何とか開講してあげたいという思いがある。

新しい事を起こすには、まず始動させてみると方策もあります。そこで、とりかかりとして、横浜総合の佐藤先生が冬季のスキーについて検討をしてみるということになりました。また、事務局は教育委員会に実施に向けて働きかけを行います。

記録 松尾

< 第 4 分科会 > 情報交換部会 [評価研究委員会]

日 時 平成 1 8 年 8 月 4 日 (金) 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

場 所 戸塚高校 大会議室

参 加 者 寺居、西山 (みなと) ・松尾 (戸定) ・佐藤、島村 (横総)

テ ー マ 「各校の情報交換から短期集中講座について学習していく」

< 研究内容 >

実際に短期集中の講座を設置している学校はあるのか？

- ・ 横浜総合高校のスキー
- ・ みなと総合のウインターキャンプ (スキー・スノーボード) サマーキャンプ
- ・ 戸塚のスキューバーダイビング (他にも設置はしていたが今年度成立はこれのみ)

などを中心に情報交換や意見交換を行いました。